



学校だより

いこま

第6号

令和5年10月4日

大東市立四條中学校

校長 長谷 敦

体育祭 ご覧いただきありがとうございました



晴天の下、9月29日（金）に無事令和5年度の体育祭を開催することができました。新型コロナウイルス感染症の位置付けが「5類感染症」となり、4年ぶりに様々な制限がなくなった体育祭となりました。平日にもかかわらず、多くの保護者に参観いただき本当にありがとうございました。

今年度から個人競技をなくし、学年やクラスを超えた7クラス対抗での競技と、新しい形にシフトしました。体育祭のスローガンは「一心必笑 〜つなげバトン つなげ絆〜」。スローガン通り、学年・クラスの団結力が発揮され、笑顔の体育祭だったのではないかと思います。

私自身、四條中の体育祭を見るのは約25年ぶり。再び四條中の体育祭を見る機会があるなんて夢のようです。当時と変わらない雰囲気は、懐かしくうれしいです。

25年前と大きく変わったのは生徒数です。グラウンドに整列する全校生徒は約220名。当時の1学年の生徒数とほぼ同じです。今では考えられない男子の10段立体ピラミッドや女子の創作ダンスなど、四條中体育祭のみどころもたくさんありました。うれしかったのは、何人かの保護者が「長谷先生」と声をかけてくださったこと。25年ぶりの再会もありました。



開会式のあいさつで、生徒たちに「失敗してもいいので全力で取り組むこと」「頑張っている仲間をしっかりと応援すること」という二つの体育祭目標について話をしました。目標については十分達成できたと思います。体育祭という大きな行事を通じ、「判断力」「実行力」「思いやり」「お互いを理解する力」・・・授業だけでは身につかない「力」を数多く身に付けてくれたと思います。

最後になりましたが早朝より当日準備、後片づけ等お手伝いいただいた PTA 役員、実行委員の皆様、青少年指導員の皆様、地域の民様、誠にありがとうございました。

太陽や月は本当に僕の友達だった。（姫野ノートより）

始業式で少し話をしたラグビー日本代表キャプテンの姫野選手。自著でもある『姫野ノート「弱さ」と闘う 53 の言葉』（飛鳥新社）には赤裸々に少年時代のことが書かれています。（本校図書室でぜひ借りてください！）

愛知県名古屋市で日本人の父とフィリピン人の母の間に生まれた姫野選手。六畳二間でゴキブリが大量に湧くアパートに、両親と姉、妹の家族 5 人暮らし。両親は給料日に、現金を持ってパチンコに出かけていたといい、そんな姫野家の生活は困窮していました。

〈給食費もともに払えなかった。僕は毎月必ず、先生から給食費を催促された〉
〈『ここが姫野んちか』と友達に知られるのすら恥ずかしくて嫌だった。同級生に家を知られたくなくて、わざわざ遠回りして家に帰った〉

物が溢れて散らかり放題の家にいるのが嫌で、日が暮れた後はひとりアパートの階段で月を見上げて過ごす毎日を送った少年時代。『ラグビーを頑張れば、大きな会社に入って普通に暮らせる。』彼にとって希望の光がラグビーであり、その光の先にあるのが「トヨタ」というチームでした。「子どもたちには夢をあきらめてほしくないから。」今回彼が少年時代のつらいことを語った理由の一つです。

ラグビーワールドカップが開催中で、日本代表は 10 月 8 日（日）に格上のアルゼンチンと戦います。夢をあきらめないで戦ってほしいです。

四条中ホームページをご覧ください

できるだけ毎日更新し、学校の様子をお伝えしていきます。体育祭で撮影した写真も、「令和 5 年度体育祭」というカテゴリーからいつでもご覧いただけます。

10月	6日（金）	3年生 実力テスト
		立会演説会
	10日（火）	生徒集会
	12日（木）	中間テスト（12日、13日）
	16日（月）	文化祭取り組みスタート
	25日（水）	文化祭準備
	26日（木）	文化祭
	27日（金）	芸術鑑賞会
	31日（火）	3年 実力テスト



（四条中ホームページです）